

- 県内・県外から頼られる病院を目指して
- 2026年4月機能強化棟（E棟）ついに全面稼働！
- 当院の教職員が知事表彰等を受けました
- 第20回「まごころ職員大賞」が決定

県内・県外から頼られる病院を目指して



病院長 野崎 和彦

本年4月1日付けで病院長を拝命致しました野崎和彦です。さて、当院は、県内唯一の特定機能病院であり、医師・看護師養成機関として、滋賀県の医療を支える三つの拠点であるべきだと考えています。

一つ目は「地域完結型医療の中核拠点」です。地域医療機関との役割分担と連携強化を進めながら、高度・最先端医療を提供することはもちろんのこと、県との調整のもと、救急、周産期医療など様々な分野で県全域をカバーする中核病院としての機能を果たしていかなければなりません。

また、先進医療や治験等の新規治療の開発・評価も積極的に行っていかなければなりません。これが二つ目の拠点「先端医療の推進拠点」です。そのために、それらを担う臨床研究開発センターの機能強化を進めてきました。さらに、新たに「医療データサイエンスセンター」を立ち上げ、疫学データと臨床データの統合解析を進めることで、新たな医療・健康産業の創出にも取り組んでいます。

そして三つ目は、滋賀県の医療を支える人材を育成する「次世代高度医療人の育成拠点」です。当院ならではのリソースを活用して、高精度放射線治療、光学診療、ハイブリッド手術、ロボット手術など高度医療の教育を進め、最先端情報・技術を理解した各分野の医療人の育成と地域への輩出を進めていかなければなりません。また、近い将来の医師・看護師不足に対応するためには、専門知識を有しながら広く地域医療を支える総合診療医や、各地域でリーダーとして活躍する看護師が重要となります。高度医療に精通しているだけでなく、そういった人材の育成も当院の重要な使命の一つです。

今後、滋賀県を含め日本の医療は大きな転換期を迎えます。地域の人材需給を踏まえた人材育成のあり方を議論する場である「地域構想推進プラットフォーム」に参画し、行政、医師会、看護協会、各教育機関などと連携・調整を進め、県や各医療圏における地域医療構想につき関連医療機関との協議を進めていきます。優れた医療人を輩出し、同時に地域医療における「最後の砦」として頑張っていきますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。

2026年4月機能強化棟（E棟）ついに全面稼働！



機能強化棟（E棟）外観

当院は、滋賀県内唯一の医育機関であり、特定機能病院として、優れた医療人の育成と、地域医療の「最後の砦」としての役割を担ってまいりました。これらの機能を一層強化し、高度急性期医療のさらなる推進を図るため、2022年5月より「機能強化棟（E棟）」の整備を2つの工区に分けて進めてきました。第Ⅰ工区は2024年3月に完成・稼働しておりますが、この度、2026年3月に第Ⅱ工区が完成し、同年4月より全面稼働いたしました。

この度完成した機能強化棟（E棟）は、救急医療機能の大幅な強化をはじめ、放射線治療部門の刷新や光学医療診療部の機能拡充を図るなど、高度急性期医療への対応力を高める施設です。将来的な高度救命救急センター指定も見据え、重症・複雑な症例に応える体制を整えるとともに、医育機関として救急医療人材の育成拠点としての機能を拡充し、滋賀県の救急医療を支える中核拠点として、さらなる役割を果たしてまいります。



2026年5月16日
機能強化棟竣工記念式典の様子

FLOOR GUIDE（第Ⅱ工区）

1 F — 救急外来 —

救急患者さんをよりスムーズに受け入れられるよう、初療ベッド（処置用ベッド）4床を中心に整備しました。また、救急エリア内にCT室や最新の血管撮影装置を新設することで、患者さんの移動の負担を減らし、搬送後の検査から診断、治療までをシームレスに行える環境を実現しました。迅速に最適な治療を開始することで、より多くの命を救うことに繋がっていきます。



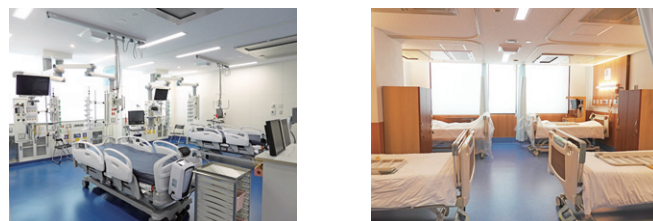
救急 待合・廊下

救急処置室

血管撮影室

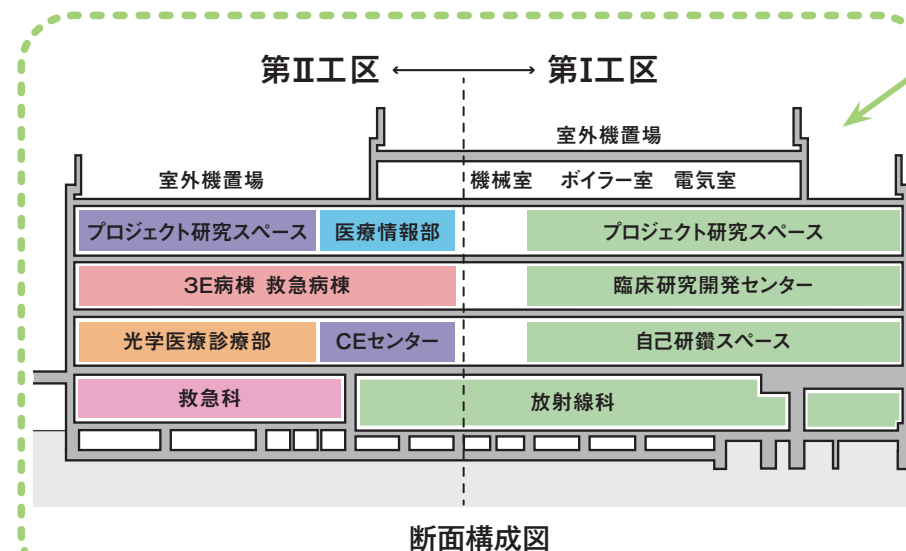
3 F — 救急病棟 —

重症患者さんに対応する病床8床を含む、救急専用病床（20床）を新たに整備しました。重症病床から中等症・軽症病床までを同一エリアに配置することで、患者さんの状態が安定するまで、一貫した質の高い医療を提供いたします。集中治療を必要とする一人でも多くの患者さんに、最適な治療環境を提供できるよう取り組んでいきます。



重症病床

病室



第Ⅰ工区はこちら▶▶
(病院ニュース第66号)



2 F — 光学医療診療部 —

内視鏡の検査室や治療室を増室したほか、検査前後に休憩いただくリカバリチェアを3台から10台へと大幅に増やしました。より多くの患者さんに内視鏡検査・治療を受けていただけるようになっただけでなく、これまで以上に患者さんのご負担を軽減し、安心・快適に検査・治療をお受けいただけます。また、最新のX線透視装置の導入や透視室の増設により、胆管や膵臓（すいぞう）などの専門的で高度な内視鏡治療を拡充し、地域の難しい症例にも積極的に対応いたします。



検査室ブース

透視室

休憩室

4 F — 医療情報部 —

各部門の機能強化に伴い、病院全体のシステムやデータを管理する最新のサーバー室・ネットワーク設備を整えました。患者さんの大切な電子カルテや医療データを厳重かつ安全に管理し、24時間365日、止まらない医療を裏側からしっかりと支えます。

当院の教職員が知事表彰等を受けました

看護部／救急・集中治療部

当院看護部の小寺看護部長が 「令和8年度 滋賀県看護功績章」を受彰！

2026年5月12日(火)、滋賀県公館(滋賀県大津市)にて、令和8年度滋賀県看護功績章・看護功労者知事表彰の授与式が執り行われ、当院小寺利美看護部長が、「滋賀県看護功績章」を受けました。この表彰は、長年にわたり県内において看護業務に従事し、その功労が多岐にわたる模範として特に推奨すべき者について、知事がその努力と功績をたたえ「看護功労者知事表彰」として表彰するとともに、さらに、特に功績顕著な者の栄誉をたてるため、「滋賀県看護功績章」を授与するものです。



授与式の様子
(左：小寺看護部長、右：三日月滋賀県知事)

当院救急・集中治療部の藤野講師が 「令和7年度 救急医療功労者知事表彰」を受彰！



授与式の様子1
(前列右から2番目：藤野講師)



授与式の様子2

2026年3月27日(金)、滋賀県公館(滋賀県大津市)において行われた、令和7年度救急医療功労者知事表彰式において、当院救急・集中治療部の藤野和典講師が、「令和7年度救急医療功労者知事表彰」を受けました。この表彰は、多年にわたり地域の救急医療の確保、救急医療対策の推進に貢献のあった個人および団体に対し、知事がその功績をたたえるものです。

第20回「まごころ職員大賞」が決定

患者サービス向上委員会

まごころ職員大賞とは？

職員の患者サービス・接遇意識の向上を啓発することを目的に、患者さんやご家族の方々から「対応が良かった」等とご推薦をいただいた職員を表彰する制度です。

患者サービス向上委員会において、投票総数306票の中から4名の職員に決定しました。2026年3月18日(水)に表彰式が行われ、田中病院長(当時)から表彰状と記念品の贈呈があり、ねぎらいの言葉がかけられました。これからも、心あたまる医療の提供を目指し、接遇向上に向けた取り組みを実施してまいります。

「まごころ大賞」に選出されたスタッフ
(受賞者代理含む)と田中病院長(当時)▶



滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する『全人的医療』」

滋賀医大病院ニュース第71号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

TEL：077(548)2012(総務企画課広報係)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。



●理念を実現するための 基本方針

- 患者さんと共に歩む医療を実践します
- 信頼・満足・安全を提供する病院を目指します
- あたたかい心で質の高い医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 先進的で高度な医療を推進します
- グローバルな視点を持ち、人間性豊かで優れた医療人を育成します
- 将来にわたり質の高い医療を提供するため、健全で安定した病院経営を目指します